

後輩たちへのエール！ その22

2020年5月12日

仲間という素晴らしさ、感謝することの大切さ

◇今回は、村井誠剛さん（弘前大学農学生命科学部国際園芸農学科）のエールです！

弘前大学に入学し、はや3年がたった。長いトンネルにいるようで試練の連続が2年間続いた。しかしこれは、間違いなく人生の中で最も濃厚な2年であったと確信できるものである。私が入学したのは青森県弘前市にある弘前大学農学生命科学部国際園芸農学科というところである。なぜ岐阜から遠く離れた青森県に行ったかという、ずっと専攻したかった農学が学べる場があるということ、そして幼少期からずっと習ってきた柔道を高レベルで学ぶことができるという点があったからである。

国際園芸という分野は他国へ短期留学し農業を学び、研究に生かすことができるという魅力があり入学を決意した。昨年はニュージーランドへ研修に行き、日本と農業の根本的な違いや外国の方との交流を通し、日本とニュージーランドの流通チャンネルの新たな発見をすることができた。国内では、青森県内にある大学の敷地で、稲などの作物をはじめとした



作物や花、野菜などといった園芸作物の栽培の実習。青森の名産品であるりんごの品種分析や一年を通じた栽培実習。黒毛和牛のお世話や羊の毛刈りなど園芸農学分野のありとあらゆる経験をさせていただいた。また、新品種発見へ向けて研究室でのDNA解析などによる品種改良など専門技術の経験を積むことができた。

さらには、日本での大きな問題である日本の食料自給率をいかに食い止めるのか？どのような策が考えられるのか？実際のフィールドワークを通しての学習などという研究室だけではわからない現状や経済面を学ぶことができ文理ともに充実した学習をすることができた。

現在入部している柔道部は東北大会で2連覇、全国国公立大会で3位といった強豪であり、高レベルの柔道が学べている。私が入部した時の初めての稽古時では、あまりの辛さに嘔吐をするレベルであった。私自身、2歳から始めた柔道。体力には自信があったし、負けるような気はしていなかった。が、地方国公立の大学でこのような思いをすることは思わなかった。毎日ボコボコに投げられ自分がみじめで



あった。さらに生活は、朝6時から稽古、午前中の授業、昼のアルバイト、午後の授業、夕方の稽古、夜のアルバイトといった生活をした。けがをしてオーバートレーニング症候群という病気にもなり、普段の生活がままならないほどになった。辛いし、きついし、苦しかった。でもそんなときに、支えてくれたのは周りにいてくれた人だった。部員や大学の仲間が私を支えてくれてご飯につれて行って頂いたり、家に招いて頂くなど精神的に安定することができた。地元の友達も電話などで話したり、家族や恩師達と話したりしたおかげで、だんだんと心身共に強くなりレギュラーを獲得することができた。個人として東北国公立で2位や、青森県で優勝をできるようになった。また、階級変更による14キロの減量にも耐えることができた。これは大きくとらえて仲間という存在が私を支えてくれていると思う。



これは余談だが、私は高校3年の受験期に「高校卒業時に柔道をやめたい」と思っていた。正直燃え尽きていたし練習に耐えられる気がしなかった。合格が分かり、柔道をすべきか迷っていた。そんな時関高校の先生に、「今までの人生柔道があったからこそ自分があったんじゃないか？だったらこれからは柔道に感謝して恩返ししていこう」と教えてくださった。この言葉は脳内に電気が走るようにビッと来るものがあり、私

にとってとても大切な言葉となった。振り返ると私の人生は柔道とともにあった。関高校に入学したのも柔道をするためだった。今いる環境今いる仲間これがあるのは先生がおっしゃったとおり柔道があるからだと感じた。余談はさておき。



冒頭で言ったが、この2年は長いトンネルにいるようだった。トンネルというのは常に暗かったという印象を受けるかもしれないが私はそうは思わなかった。トンネルを超えたときそこには明るい世界が待っているに違いない。そのトンネルを抜けるための努力を決して緩めることなく駆け抜けることができたのではないだろうか。



私はいろいろなことに対して才能がないなと思うことがある。柔道、勉強、スポーツなど才能がない。しかし私には一つだけ才能があると思う。それは人に恵まれる才能である。私に携わってくれたすべての人が私を支えてくれる。困っていれば手を差し伸べてくれ、笑顔にいつもさせてくれる。これは詭弁だ

と思う人もいるが事実だ。私はこの人たちにしてもらったことへの感謝を絶対に忘れてはいけない。これから先私は多くの人を支えられるような存在になる。これが将来の夢だ。

私はこれから卒業研究、大学院入学、博士号取得へ向けて大きな壁を打破するために勉強を進めている。新たな品種を育種し、世界の農業問題を解決に導けるような品種作りたい。また柔道においては個人で全国大会への出場やチームが団体に全国ベスト8になるための努力を重ねていく。



関高生の皆さん、いつも勉強お疲れ様です。高校の3年間はとてつもない青春で、かけがえのない思い出です。人生の友、パートナーと出会える場所です。もちろん、辛い思いや苦い経験などあるのは生きている以上当たり前です。辛いときは仲間がきっと支えてくれます。逆に誰かが辛いときは支えてあげましょう。それを乗り越えて仲間みんなで笑っているときより深い青春、思い出になります。

高校時代なんて人生の中での一瞬だからどうしてもよいと思うかもしれませんが人とのつながりを大切にすれば、大学に入ってから良い友になりますし、良い友にも巡り合えると思います。だからこそ、一瞬の辛さや苦しみで自暴自棄になって自分を見失わないでください。先を見て、素直な気持ちで頑張ってください。きっと良い将来が見えると思います。受験や部活とても大変な思いを皆さんきっとすると思います。頑張った先には明るい未来が待ってます。受験を乗り越えたからあの時頑張れた。部活に比べたら全く辛い。ときっと思える日が来るので頑張ってください。

ちょっとだけ先輩がいきがってすいませんでした。

来年は関高校100周年。ちょっと早いですが、おめでとうございます。

関高校2018年度卒 弘前大学農学生命科学部国際園芸農学科 村井誠剛

